

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第77集

# 八幡山古墳群 1号墳 ・ 大塚古墳群

平成 23 年 3 月

宇都宮市教育委員会

## 序

宇都宮市北部の丘陵上には、八幡山古墳群や大塚古墳群をはじめ多数の古墳群が所在します。これらの古墳群は古墳時代後期に造られたもので、この地域が6世紀以降に開発が進み、多くの人々が暮らしていたことを窺わせます。

本報告書は、平成6年の八幡山公園再整備に先立つ八幡山古墳群1号墳の調査と、平成20年の個人住宅建設に先立つ大塚古墳群の調査の成果を報告するものです。

これらの調査で、宇都宮の古墳時代後期の墓制の在り方や地元で産出する凝灰岩の加工技術などを解明する上で重要な資料を得ることができました。

本報告書はその内容をまとめたものであり、この成果が多くの方々により広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査及び報告書の作成にあたり、多大なるご協力とご理解を賜りました地権者の皆様並びに関係諸機関に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成23年3月30日

宇都宮市教育委員会

教育長 伊藤文雄



八幡山古墳群 1号墳石室



大塚古墳群 2号墳石室

## 例 言

1 本報告書は、栃木県宇都宮市壺田5丁目2592-2に所在する八幡山古墳群1号墳と栃木県宇都宮市上戸祭町字大塚2989-58に所在する大塚古墳群に関する発掘調査報告書である。

2 八幡山古墳群1号墳の調査は、八幡山公園再整備に伴う調査である。大塚古墳群の調査は、個人住宅の建設に伴う調査で、平成20年度に国庫補助事業として実施したものである。

3 調査期間は次のとおりである。

八幡山古墳群1号墳 平成6年2月14日～3月31日

大塚古墳群 平成20年5月26日～7月18日

4 調査面積は次のとおりである。

八幡山古墳群1号墳 約250㎡

大塚古墳群 1,273㎡

5 八幡山古墳群1号墳の発掘調査での測量、写真撮影等は大塚雅之が、大塚古墳群の発掘調査での測量、写真撮影等は今平利幸がこれにあたった。

6 遺構・遺物の整理、実測などは、上野とも子、齊藤しのぶ、川津淳子、阿久津とよ子の協力を得て、今平利幸がこれにあたった。また、遺物の写真撮影は、今平利幸、上野とも子、齊藤しのぶがこれにあたった。

7 本書の執筆は大塚、今平がこれにあたった。

8 本遺跡出土の遺物及び図面・写真は、宇都宮市教育委員会で保管している。

9 発掘調査の関係者は次のとおりである。

八幡山古墳群1号墳

〔指導助言〕

宇都宮市文化財保護審議委員会委員 塙静夫

” 橋本澄朗

” 大金宣亮

〔調査主体〕

宇都宮市教育委員会 教育長 大塚一之

教育次長 近能忠良

調査担当 文化課長 横堀杉生

文化課長補佐 桜井敬朔

文化財保護係長 手塚英男

文化財保護係 梁木誠、小松俊雄、大塚雅之、富川努、神野安伸、  
今平利幸

〔調査補助員〕 赤羽郁美、大塚清、小松寅雄、吉沢良助、熊田聡、高橋邦夫

大塚古墳群

〔指導助言〕

宇都宮市文化財保護審議委員会委員 塙 静夫  
# 橋本 澄朗

〔調査主体〕

宇都宮市教育委員会 教育長 伊藤文雄

教育次長 高井 徹

調査担当 文化課長 檜原貞亮

文化課長補佐 篠原 豊

文化財保護係長 大塚雅之

文化財保護係 神野安伸・今平利幸・須田浩太郎・前原義之  
・井上俊邦・黒須寛・鈴木浩史・笈芳子

〔調査補助員〕 入江文子・入江つや子・入江タカ子・入江通子・篠原信子

〔協力者〕 田崎裕昭

## 凡 例

1. 挿図の縮尺は、古墳などの遺構が1/40・1/60を基本とし、遺物は1/3を基本とした。また、遺物実測図番号は遺構平・断面図の番号及び図版の遺物番号と一致する。
2. 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は真北を示す。
3. 遺構実測図の土層説明においては、次の略号を使用した。

ロームブロック…LB ローム粒…LR 今市パミス…IP 七本椗パミス…SP 鹿沼パミス…KP  
凝灰岩…G 炭化物…C

# 目 次

序・例言・凡例

## I はじめに

1 調査の経過 . . . . . 1

(1) 八幡山古墳群1号墳

(2) 大塚古墳群

2 遺跡の環境 . . . . . 2

## II 調査概要

1 八幡山古墳群1号墳 . . . . . 7

2 大塚古墳群 . . . . . 16

(1) 大塚古墳

(2) 2号墳

III おわりに . . . . . 29

## 挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡分布図	4
第2図	大塚古墳測量図・石室実測図	6
第3図	八幡山古墳群1号墳トレンチ配置図	8
第4図	八幡山古墳群1号墳断面図	9
第5図	八幡山古墳群1号墳石室平・断面図(1)	10
第6図	八幡山古墳群1号墳石室平・断面図(2)	11
第7図	遺物出土状況図	12
第8図	八幡山古墳群1号墳出土遺物実測図(1)	13
第9図	八幡山古墳群1号墳出土遺物実測図(2)	14
第10図	大塚古墳群測量図	17
第11図	大塚古墳群断面図	18
第12図	大塚古墳群2号墳測量図	19
第13図	大塚古墳群2号墳平面図	20
第14図	大塚古墳群2号墳断面図	21
第15図	大塚古墳群2号墳石室確認面実測図	22
第16図	大塚古墳群2号墳石室平・断面図	23・24
第17図	大塚古墳群2号墳断面図	25
第18図	大塚古墳群出土遺物実測図	28
第19図	宇都宮北部丘陵地区横穴式石室変遷案図	31

## 表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表	5
第2表	周辺横穴式石室一覧表	30

## 図 版 目 次

PL 1	①羨道閉塞状況 ②羨道確認状況(1)
PL 2	①羨道確認状況(2) ②玄室完掘状況
PL 3	①石室全景
PL 4	①墓道上層遺物出土状況 ②玄室内耳環出土状況
PL 5	①ガラス小玉 ②丸玉 ③切子玉
PL 6	①勾玉 ②耳環 ③須恵器甕 ④弥生土器 ⑤石鏃
PL 7	①大塚古墳と2号墳(調査前) ②大塚古墳周溝確認状況
PL 8	①大塚古墳群2号墳全景(北より) ②大塚古墳群2号墳全景(南より)
PL 9	①大塚古墳群2号墳セクション ②大塚古墳群2号墳周溝内土坑完掘状況
PL 10	①墓道閉塞状況 ②玄室完掘状況(南西より)
PL 11	①玄室完掘状況(東より) ②玄室完掘状況アップ(南より)
PL 12	①玄室完掘状況(南より) ②土師器甕
PL 13	①かわらけ ②古銭 ③縄文土器

# I はじめに

## 1 調査の経過

### (1) 八幡山古墳群 1号墳

八幡山公園は以前かなりの数の円墳が存在していたが、その後の開発や公園化で表面からの観察は困難となった。昭和53年の宇都宮市内遺跡分布調査において石室が一部露出している古墳が確認され、これを「宇都宮タワー前古墳」の名称で登録した。平成8年に八幡山公園が一部再整備されることになり、事前にこの古墳を調査することとなった。なお、調査にあたり、この古墳の名称を「八幡山古墳群 1号墳」と改称した。

調査は平成6年2月14日に開始し、3月31日までの期間で実施した。

### (2) 大塚古墳群

上戸祭町字大塚2989-58番地所在の大塚古墳群（県番号 2359）において個人住宅の建設が予定されたため、平成17年11月21日に5本のトレンチを設定し、確認調査を実施した。その結果、大塚古墳の南側で、墳丘と思われる高まりと周溝が確認されたため、地権者と協議をし、平成20年3月24日に調査についての依頼が提出されたことから、記録保存のための本調査を、平成20年度に国・県の補助を得て実施することとした。

調査は平成20年5月26日に開始し、7月18日までの期間で実施した。

#### 【調査日誌抄】

5月26日 トイレ等の設置。委託業者による測量準備。

5月28日 下草刈り。テント等の設置箇所を整備。

6月2日 石室部分の表土剥ぎ。石室の側壁と思われる石を確認。天井石はすでに抜き取られていることが判明。

6月5日 石室部分の表土の掘り下げ。閉塞石が残っている状況を確認。

6月9日・11日 地形測量

6月13日・16日 重機による表土剥ぎ

大塚古墳の南側の攪乱溝を掘り下げて、大塚古墳の周溝部分が残存しているかどうかを確認した。その結果、攪乱溝が鹿沼軽石層まで達しており、この部分において周溝は残存していないことがわかった。

なお、大塚古墳側の壁を清掃した結果、盗掘穴と考えられる攪乱溝が確認できたほか、大塚古墳の周溝埋土層と考えられる黒色土層が確認できた。

6月19日 2号墳の石室部分の掘り下げ

6月23日・24日 2号墳の石室部分の凝灰岩の出土状況平面図を作成。周溝北部分の掘り下げ。

6月27日 ほぼ周溝底が確認。周溝底は、北側に向かって徐々に上がっている状況がわかった。

6月30日 セクションベルトを除去後写真撮影。その後石室部分の出土状況平面図を追加作成。周溝北西部分の掘り下げ。周溝埋土中より土師器片と縄文土器片が出土した。

7月2日 天井石の一部と思われる石材を撤去後石室の掘り下げ。玄関付近で凝灰岩片と粘土混じりの層を確認。側壁の裏込めが崩落したものと思われる。石室内セクション図の追加。北側周溝部の掘り下げ。北西部にかけて周溝内側が緩く傾斜している状態を確認。



- 7月4日・7日 南東側周溝部の掘り下げ。
- 7月8日・9日 墓道部分の掘り下げ。
- 7月10日 墓道部分のセクション図作成後、セクションの除去。石室内埋土の掘り下げを行う。床面付近で玉砂利を確認。北側の側壁抉り込み土坑の掘り下げ。
- 7月11日 石室内埋土の掘り下げ。石室内への崩落石を図化。南東部周溝セクションベルトの除去。北側墳丘部分のコンター図及び平面図を作成。
- 7月14日 南側墳丘部分のコンター図及び平面図を作成。その後全体写真撮影のための清掃。床面は、玉石が敷かれている状況を確認。
- 7月15日 2号墳の清掃後、完掘写真を撮影。南北方向と東西方向の墳丘部分の断ち割りを行う。  
石室床面及び奥壁の実測。墓道部分を掘り下げた結果、最初の墓道部分を確認した。この層は凝灰岩の粒子及びブロックを含む黒褐色の土で埋め戻されていた。石室内清掃の際に、奥壁付近から中世の古銭が出土した。
- 7月16日 石室床面上層の玉石を出し、清掃後写真撮影と実測を行う。それが終了後玉石を取り除いた結果、その下からもう一層玉石の層を確認。東西方向と南北方向に墳丘の構築状況を見るための断ち割りをを行い、東西方向のセクション図作成。
- 7月17日 石室床面下層の玉石を実測後、それを取り除き掘り方面の写真撮影。断ち割り部分の平面図作成。南北断ち割り部分のセクション図を作成。
- 7月18日 墳丘部分の土坑の掘り下げ後平面図作成。テント等の撤去。重機による埋め戻し。調査終了。

## 2 遺跡の環境

八幡山古墳群・大塚古墳群の所在する宇都宮市は、栃木県の中央部に位置し、関東平野の最奥部にあたる。八幡山古墳群は宇都宮市街地の北約1kmの八幡山公園内に位置し、大塚古墳群は、宇都宮市街地の北約2.5kmに位置する。

八幡山古墳群1号墳は宇都宮丘陵南端部の標高約140mに立地する。以前周辺には数多くの古墳が存在したが、公園整備に伴い現状ではその位置を確認することはできない。なお、この公園は、1906（明治39）年に、塩田蓬一郎氏が塩田園という公園を開いたのがはじまりで、その後、宇都宮市の所有となり1927（昭和2）年に「八幡山公園」として開園した。1922（大正11）年には、それまで陸軍第14師団にあった大砲が八幡山にすえつけられ、正午を知らせる午報が鳴らされ、「八幡山のドン」の名で親しまれた。現在は約830本のサクラ、5000本のツツジが植えられており、市民のいこいの場となっている。

大塚古墳群は宇都宮丘陵南斜面上に立地し、標高は約155mを測る。周辺は宅地化が進んでいるが、古墳群の中心である大塚古墳が栃木県の指定史跡であることもあり、古墳群を含む丘陵部は山林が良く残っている。

大塚古墳は「戸祭大塚古墳」とも呼ばれ、直径が53.4m、高さ6.2mの二段築成の円墳である。周溝は良く残っているが、南側の一部が昭和40年の盗掘により壊されている。その痕跡が今回の調査で改めて確認できた。盗掘時の緊急調査により、砂質凝灰岩の割石積みで、奥壁は1枚石、天井石は3枚で、玄室の規模は、長さ5.17m、奥壁部での幅が1.95m、高さ約2mであることが判明した。実測調査の際に直刀が確認されているが、現状のまま保存されている。

次に、両遺跡周辺の歴史的環境について概略を述べる。

## 古墳

大塚古墳群(1)に隣接して8基の円墳からなる大ジノ古墳群(18)が存在するが、同じ斜面上に展開することからこれら同一の古墳群と捉えて差し支えないものと思われる。なお、この古墳群中最大の古墳が大塚古墳である。

本古墳群の所在する宇都宮丘陵上には多数の古墳群が存在する。そのほとんどが古墳時代後期の所産である。この丘陵上で今のところ一番古い古墳は、丘陵南端に位置する御藏山古墳(31)である。この古墳は平成4年に一部調査がなされ、埋葬施設は確認されなかったものの、全長62mの中規模の前方後円墳であることがわかった。出土した埴輪などから6世紀前半に位置づけられる。この古墳の北側に八幡山古墳群1号墳を含む多数の円墳からなる八幡山古墳群(30)が所在する。また、祥雲寺境内古墳(29)と呼ばれる全長40mの前方後円墳も存在する。大塚古墳群とこの古墳群の間には、戸祭兜塚古墳群(27)、山本山古墳群(26)など、5～6基程度の円墳からなる古墳群が釜川に面する宇都宮丘陵上に点在する。

この地域最初の横穴式石室の導入は、大塚古墳群の北東方約3kmの北山古墳群(2)である。ここには、権現山古墳、宮下古墳、雷電山古墳の3基の前方後円墳と円墳群が存在する。特に権現山古墳は、狭長な無袖式の石室形態から初期の横穴式石室と考えられる。大塚古墳群の北東方約1.5kmの瓦塚古墳群(11)は市内でも最大級の古墳群で、全長約50mの前方後円墳である瓦塚古墳を中心に約30基の円墳群で構成されている。その東側には直径29mの円墳である谷口山古墳を中心とする谷口山古墳群(12)が存在する。

また、大塚古墳群の北東方約1kmには52基の横穴からなる長岡百穴古墳(13)(栃木県指定史跡)が所在する。この横穴は7世紀を中心として造られたものと考えられ、内陸部の横穴墓としては、数少ない事例として注目される。

このように、宇都宮北部丘陵上には6世紀～7世紀初頭にかけて数多くの古墳が造られている。

## 集落

第1表に示すとおり、古墳時代の集落跡は釜川及び田川沿いを中心に点在するが、調査例が少なく、時期的なものを含めて不明な部分が多い。大塚古墳群の西方500mの北の前・前田遺跡(21・22)では6世紀末から10世紀にかけての竪穴住居跡等が確認されており、本古墳群との関連が窺われる。

また、大塚古墳群の隣接地で上戸祭大塚窯跡(19)が確認されている。この窯跡は昭和62年に個人住宅建築に伴い窯跡1基が発見された。

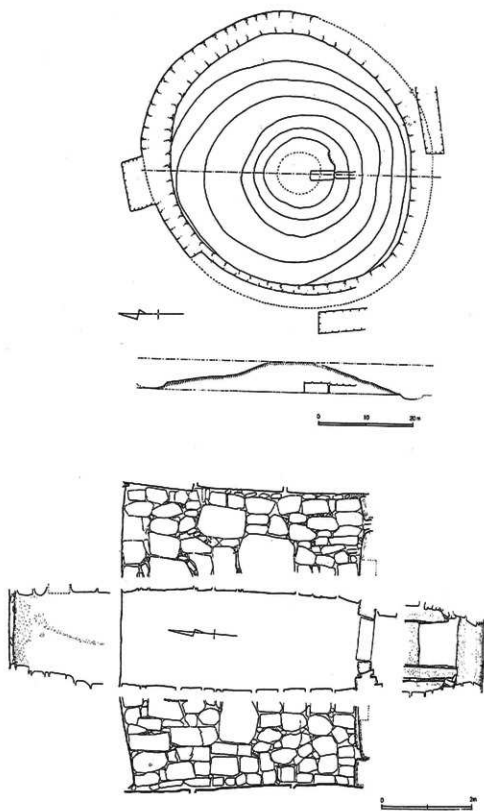
このほか、欠の上・広表遺跡(5・6)の窯跡や水道山遺跡(25)の瓦窯跡等、8世紀代にはこの周辺で窯業が盛んに行われていたことがわかる。特に水道山瓦窯跡で生産された瓦は下野薬師寺等に供給され、古代下野国中枢部との関連が注目される。



第1図 周辺遺跡分布図 (1:25000) ●古墳 ■集落跡

No.	遺跡名	所在地	時代と種別	備考
1	大塚古墳群	宇都宮市戸祭町	古墳時代の古墳	
2	北山古墳群	宇都宮市瓦谷町	古墳時代の古墳	前方後円墳3基、円墳9基（現存5基）
	宮下古墳			墳長43mの前方後円墳
	雷電山古墳			墳長40mの前方後円墳
	権現山古墳			墳長40mの前方後円墳
3	上の台遺跡	宇都宮市瓦谷町	古墳時代の集落跡	
4	善理部羅遺跡	宇都宮市瓦谷町	縄文・古墳時代の集落跡	
5	欠の上遺跡	宇都宮市瓦谷町	縄文・古墳時代の集落跡 古代の窯跡	
6	広表窯跡	宇都宮市瓦谷町	古代の窯跡	
7	桜畑遺跡	宇都宮市瓦谷町	縄文・弥生の集落跡	
8	野沢石塚遺跡	宇都宮市野沢町	縄文・弥生の集落跡	
9	関塚土用地遺跡	宇都宮市関塚町	古墳時代の集落跡	
10	瓦塚日溝遺跡	宇都宮市瓦谷町	縄文・古墳時代の集落跡	
11	瓦塚古墳群	宇都宮市長岡町	古墳時代の古墳	市指定史跡、墳長約50mの前方後円墳、円墳41基
12	谷口山古墳群	宇都宮市長岡町	古墳時代の古墳	市指定史跡、円墳5基
13	長岡百穴古墳	宇都宮市長岡町	古墳時代の古墳	県指定史跡、横穴墓52基
14	百穴裏遺跡	宇都宮市長岡町	縄文・古墳時代の集落跡	
15	浮ノ森古墳	宇都宮市上戸祭町	古墳時代の古墳	前方後円墳？
16	北原遺跡	宇都宮市上戸祭町	縄文・古墳～平安時代の集落跡	
17	上戸祭中ノ島遺跡	宇都宮市上戸祭町	縄文・古墳時代の集落跡	
18	大ジノ古墳群	宇都宮市上戸祭町	古墳時代の古墳	円墳8基
19	上戸祭大塚窯跡	宇都宮市上戸祭町	古代の窯跡	
20	松ヶ丘遺跡	宇都宮市上戸祭町	縄文・古墳時代の集落跡	
21	北の前遺跡	宇都宮市上戸祭町	縄文～中世の集落跡	
22	前田遺跡	宇都宮市上戸祭町	古墳～平安の集落跡	
23	田向遺跡	宇都宮市長岡町	縄文・古墳時代の集落跡	
24	根河原窯跡	宇都宮市上戸祭町	古代の窯跡	
25	水道山窯跡	宇都宮市中戸祭町	古代の窯跡	
26	山本山古墳群	宇都宮市山本町	古墳時代の古墳	円墳2基
27	戸祭兜塚古墳群	宇都宮市戸祭町	古墳時代の古墳	円墳6基
28	戸祭免田遺跡	宇都宮市戸祭町	古墳時代の散布地	
29	祥雲寺境内古墳群	宇都宮市戸祭町	古墳時代の古墳	墳長40mの前方後円墳
30	八幡山古墳群	宇都宮市塚田町	古墳時代の古墳	八幡山1号墳は本書記載
31	御蔵山古墳	宇都宮市塚田町	古墳時代の古墳	墳長40mの前方後円墳

第1表 周辺遺跡一覧表



第2図 大塚古墳測量図・石室実測図

## II 調査概要

### 1 八幡山古墳群 1号墳

遺構は表面からの観察で凝灰岩の石室が「コ」の字形に確認できた。調査前は、側壁最下部の基礎石のみが存在しているだけと思われたが、調査の結果、天井石のみが欠損した比較的良好な残りの石室であることがわかった。

#### 墳丘

墳丘は西側が削平されており全体像がわからないが、墳形は円墳で、周溝の内側立ち上がり部分で割った墳丘径は約16mである。

周溝幅は1.6m～2.4m、確認面からの深さは0.5～0.8mで、覆土は自然堆積である。

#### 石室

埋葬施設は両袖式の横穴式石室である。石室は、玄室及び羨道部に凝灰岩の割石を使用している。石室内の石材の組み方は非常に精巧で、一部に切り組みを用いている。東側の壁の一部が落ちており、大きな攪乱もこの付近で見られることから、後年に盗掘を受けた跡と考えられる。奥壁は凝灰岩の1枚石を使用し、床面には10～20cm大の玉石敷で、2段に敷かれている。また、閉塞状況や玄門の形状から最低1回の追葬があったと考えられる。

石室の方位はN-16°-Eで、ほぼ南向きに開口する。

玄室の全長は3.8m、幅は奥壁で0.84m、羨道付近で1.2m、奥壁側1/3付近が最大で1.4mを測り、やや胴が張る形態である。側壁は根石にやや大きめの凝灰岩を横長に使用し、5～6段に積まれている。玄門は立柱石をもつ組合せ玄門である。

羨道部の長さは1.2m、幅が1.0mで、床面には凝灰岩の割石が敷かれている。なお、羨道部は凝灰岩の割石により閉塞されている状況が確認できた。

墓道は、羨道の延長線で直線的にのび、南に向かって緩やかに傾斜し、周溝に接続する。墓道の長さは4.6m、幅は羨道側で1.3～1.5m、確認面からの深さは約10～20cmである。

#### 出土遺物

遺物は直刀1、刀子1、耳環3、切子玉5、勾玉5、ガラス小玉116、丸玉15、須恵器片が出土した。玄室内の床面からは、耳環、切子玉、勾玉、ガラス小玉が出土し、墓道上層において直刀や刀子、勾玉1、小玉、須恵器片が出土した。後者は盗掘の際等に玄室外に持ち出されたものと考えられる。

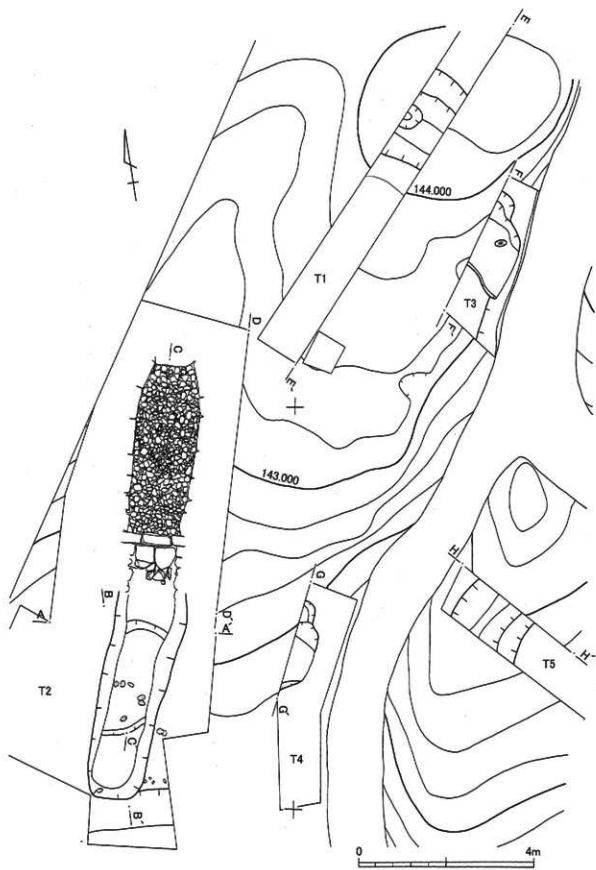
ガラス小玉（第8図1～116）

玄室床面からの出土である。大きさが径3mm～4mm、厚さ1.5～3mmとほぼ均一で、色調は紺色である。

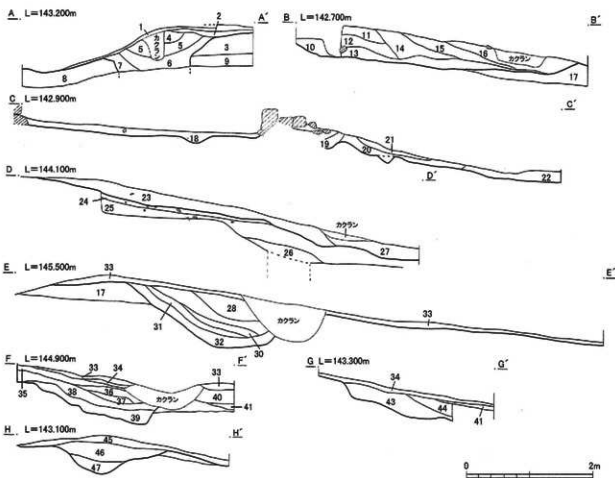
丸玉（第8図117～133）

1点（第8図117）が墓道部で見つかった以外は玄室内からの出土で、その多くは玄室中央部で見つかっている。石製で、大きさが径8mm～10mm、厚さ7～10mmとほぼ均一で、色調は黒色・灰白色・明褐色である。水晶製切子玉（第9図134～138）

玄室内から出土している。134は最大径15mm、最小径10mm、高さ2.4cm、重さ5.67gで、色調は透明である。135は最大径17mm、最小径9mm、高さ2.6cm、重さ9.46gで、色調は透明である。136は最大径16mm、最小径8mm、高さ2.5cm、重さ7.28gで、色調は透明である。137は最大径15mm、最小径8mm、高さ2.2cm、



第3図 八幡山古墳群1号墳トレンチ配置図



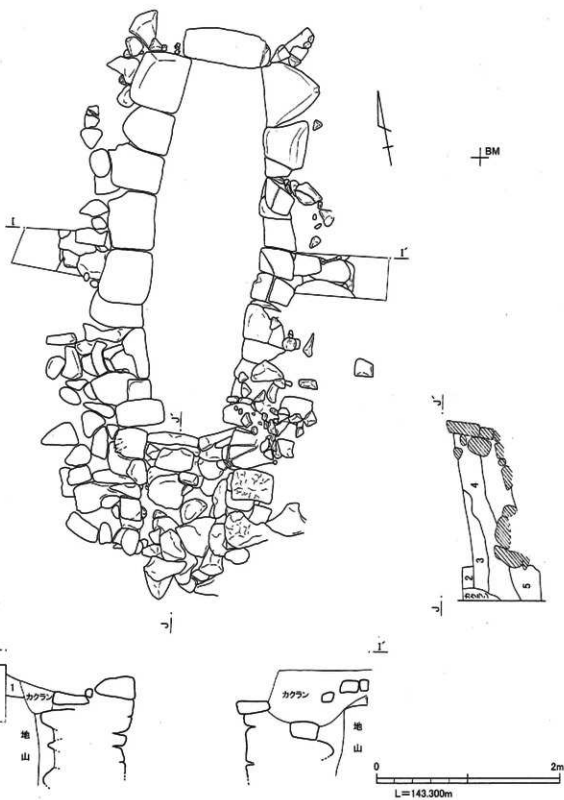
A~H

- 1 褐色土 LR少, G粒クズ微  
 2 淡褐色土 LR少, G多, G粒, クズ多, 黒色土粒, SP・IP粒微, 硬くしまった層  
 3 暗褐色土 LR少, 黒色土少, 軟らかい層  
 4 黄褐色土 LR主体, G粒微, 軟らかくきめ細かい層  
 5 暗褐色土 LR少, 黒色土多, 軟らかい層  
 6 淡褐色土 LR主体, G粒, 屑クズ多, 軟らかい層  
 7 暗褐色土 3層より硬くしまった層  
 8 暗赤褐色土 LR主体, IP粒多, 黒色土, SP, G粒クズ微, しまった層  
 9 褐色土 LR主体, 1層より硬い層  
 10 淡褐色土 LR(きの細かい, 風乾)主体, G粒(微粒)少  
 11 褐色土 強G粒微  
 12 褐色土 2~3cm大G粒少, 微G粒微  
 13 暗褐色土 小G粒少  
 14 暗褐色土 微G粒・小G粒少  
 15 褐色土 小G粒少  
 16 淡褐色土 2~3cm大G粒少  
 17 地山  
 18 淡黄褐色土 LR主体, G粒少量混入  
 19 暗褐色土 2~3cm大LB多, 小LB多  
 20 褐色土 LR多  
 21 淡灰褐色土 小G砕・G粒多  
 22 暗褐色土 LR多, IP・SP微  
 23 褐色土 LR少, 黒色土少混入, G粒屑クズ微混入, SP微混入

- 24 淡褐色土 LR少, G粒, G屑クズ混入, SP少混入, 硬くしまった層  
 25 暗褐色土 黒色土少, LR少, G粒少, SP・IP粒混入, 軟らかくきめ細かい層  
 26 暗褐色土 25層に比べ硬くしまった層(25層とほぼ同形成層)  
 27 褐色土 LR多, 23層に比べ軟らかくきめ細かい層  
 28 褐色土 LR主体, きめ細かい  
 29 暗褐色土 28層に黒色土混入  
 30 暗黄褐色土 小LB多, LR多  
 31 暗褐色土 29層にIP・SP微量混入  
 32 暗黄褐色土 小LB・LR多, SP・IP少, 黒色土が小ブロックになって混入  
 33 表土  
 34 黒褐色土 黒色土多  
 35 淡褐色土 きめ細かいそろった粒子, 硬い  
 36 暗褐色土 黒色土粒とLRが斑状に入る  
 37 暗黄褐色土 LR・小LB多  
 38 暗褐色土 36層よりも黒色土粒が多い  
 39 淡黄褐色土 LR・小LB多, IP・SP微量混入  
 40 暗褐色土 LB・LR・黒色土粒混入  
 41 淡灰褐色土 きめ細かい, 質は35層に似る, 軟らかい  
 42 暗褐色土 LR・LB少, 41層混入  
 43 黒褐色土 褐色土と黒色土が斑状に混入  
 44 黒褐色土 43層に若干の腐植土(黒色)が入る  
 45 暗褐色土 LR少  
 46 黒褐色土 褐色土と黒褐色土が斑状に混入, G粒微量  
 47 暗褐色土 LR主体, 黒褐色土粒混入

第4図 八幡山古墳群1号墳断面図

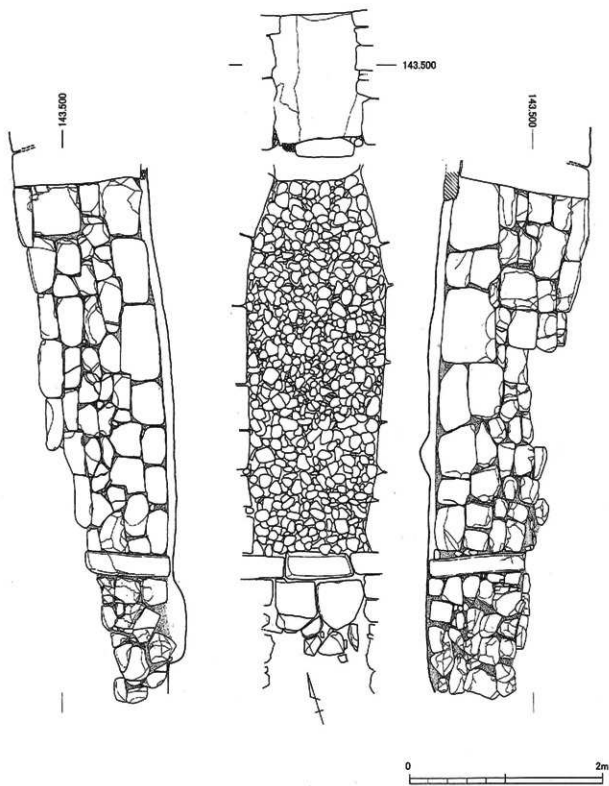




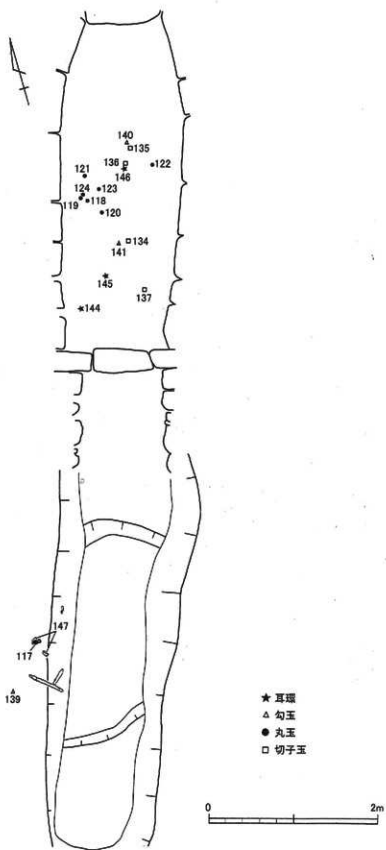
I-J

- |   |      |                    |
|---|------|--------------------|
| 1 | 黒褐色土 |                    |
| 2 | 明褐色土 | 2~3cm大Gブロック微、さの細かい |
| 3 | 黒褐色土 | G粒・C粒混入、小LB微       |
| 4 | 褐色土  | 2~3cm大Gブロック多       |
| 5 | 明褐色土 | 2~3cm大Gブロック少       |

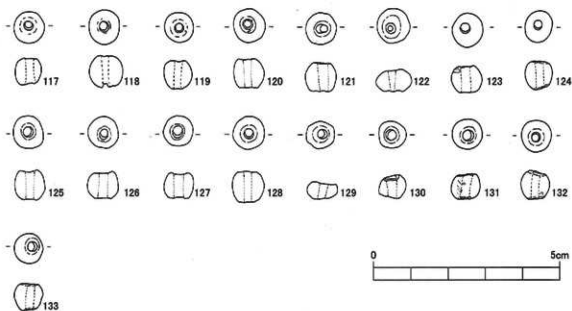
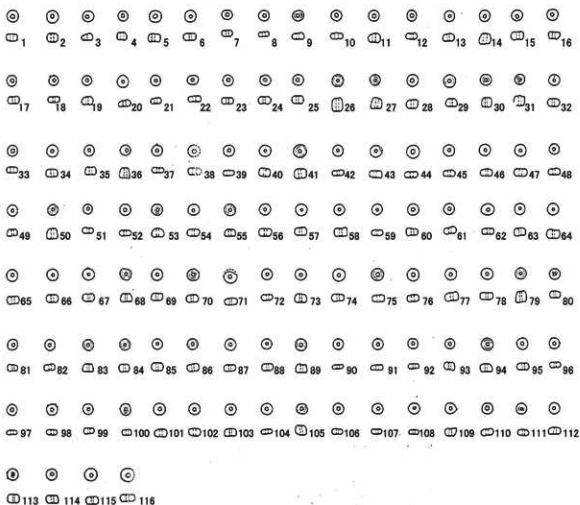
第5図 八幡山古墳群1号墳石室平・断面図(1)



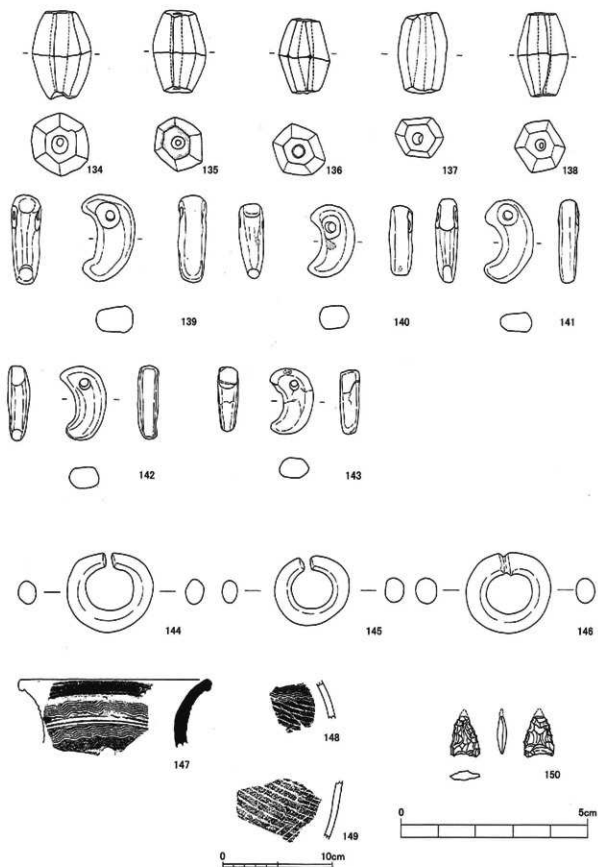
第6図 八幡山古墳群1号墳石室平・断面図(2)



第7図 遺物出土状況図



第8图 八幡山古坟群1号坟出土遺物実侧图(1)



第9图 八幅山古坟群1号坟出土遗物实测图(2)

重さ6.0gで、色調は透明である。138は最大径16mm、最小径9mm、高さ2.5cm、重さ6.96gで、色調は透明である。

#### 勾玉 (第9図139~143)

139は長さ2.2cm、幅0.7~1.0cm、重さ2.5gである。140は長さ2.0cm、幅0.6~0.9cm、重さ1.75gである。141は長さ2.6cm、幅0.8~1.1cm、重さ4.86gである。142は長さ2.2cm、幅0.7~1.0cm、重さ2.43gである。143は長さ2.5cm、幅0.8~1.0cm、重さ3.14gである。

#### 耳環 (第9図144~146)

耳環は3点とも玄室内から出土している。144は青銅製で、長径2.6cm、短径2.4cmの楕円形で、断面1.4cm×1.3cmの楕円形、突き合わせ部の隙間は2mm、重さ14.39gである。145は青銅製で、長径2.3cm、短径2.0cmの楕円形で、断面1.2cm×1.1cmの楕円形、突き合わせ部の隙間は2mm、重さ11.51gである。146は青銅製で、長径2.6cm、短径2.4cmの楕円形で、断面1.4cm×1.2cmの楕円形、突き合わせ部の隙間は緑青により癒着している。重さ15.61gである。

#### 須恵器甕 (第9図147)

須恵器甕口縁部片が1点、墓道部分から出土した。口径が17.6cmで、外面に波状文と2条の沈線文が施される。

#### 弥生土器 (第9図148・149)

石室埋土中より2点の弥生土器が出土した。148は胴部片で、地文が付加状縄文で、波状文が施される。149は胴部片で、付加条2種が施される。

#### 石鏝 (第9図150)

形状は凹基で、先端部が欠損している。最大現存長は2.0cm、最大幅1.9cm、厚さ0.4cm、重量0.76g、石質はチャートである。

## 2 大塚古墳群

### (1) 大塚古墳

前章で記載したとおり、今回の調査において大塚古墳の周溝南側部分の調査を行った。調査区部分のほとんどが当時の盗掘跡で、鹿沼軽石層まで達しており、残念ながら周溝は確認できなかった。但し、墳丘側で周溝の断面が確認できた。

第11図B-B'は墳丘に対して直交する断面図である。箱形の掘削は鹿沼軽石層まで達しており、6~9層は盗掘時に発生した掘削土を盛り上げた層である。また、10~17層は盗掘の際もしくはその後に埋め戻した層と考えられ、特に11層には落ち葉の腐食土が含まれている。第10図C4杭付近の等高線が盛り上がっているのは、このような盗掘の際の発生土である。

第11図A-A'はB-B'に直交して設定した断面図である。断面西端で盗掘穴と思われる部分が確認できた。この場所は、墳丘南側のほぼ中央に位置する。1層は盗掘時の盛土と考えられるが、2~4層は周溝埋土層である。この断面から、周溝は鹿沼軽石層まで掘り込まれていたことが判明した。

### (2) 2号墳

#### 位置

大塚古墳の約10m南の緩斜面に位置する(第10図)。

#### 墳丘と周溝

墳丘の高さは約1.75mで、非常に低いマウンドである。周溝は円形にめぐると思われるが、西側の一部が調査区外となる。

周溝の内側立ち上がり部分で測った墳丘径は12.9m、周溝外径は16.3mである。墳丘の円の中心はほぼ横穴式石室奥壁の位置である。

周溝幅は、最大が北側で3.6m、最小が南側の墓道付近で1.2m、確認面からの深さは、0.3~0.7mである。北側の周溝幅が広く深いに対し、南側の周溝が細く狭いのは、南側に向かった緩斜面上に築造したこと起因する。周溝底面は、地山ローム層である。覆土は、自然堆積で、大きく3層に分けられる。

墓道周辺には盗掘の際に取り外されたと考えられる凝灰岩等の石材が散乱し出土している(第15図)。

#### 周溝内埋葬

周溝北側で、周溝外壁を挟り込む土坑1基を確認した。土坑の規模は、長軸2m、短軸0.7mの楕円形で、外壁から20cm程掘り込まれている。第14図C-C'断面からわかるように周溝開口時に掘られ、27・28層ともローム粒の多い層であることから人為的に埋められたものと考えられる。

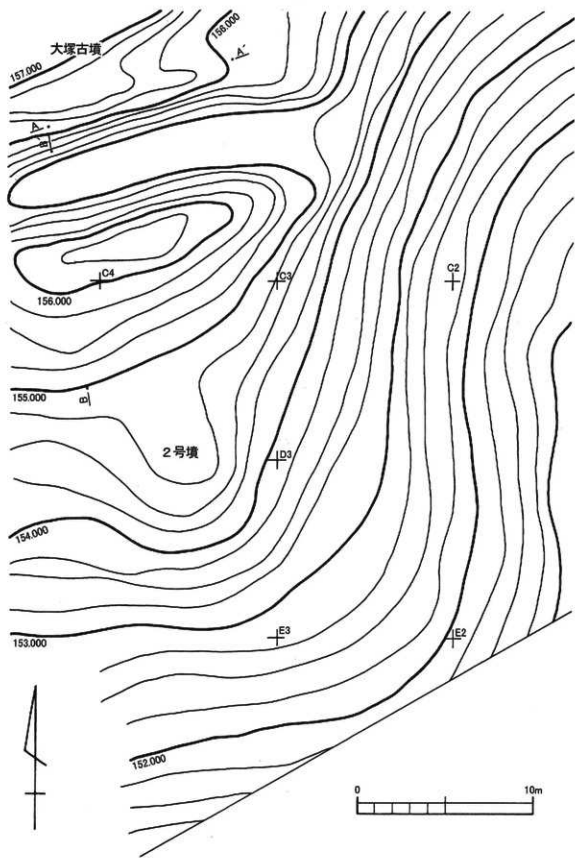
#### 埋葬施設

埋葬施設は横穴式石室である。石室は、玄室及び羨道部に凝灰岩の割石を使用している。盗掘により、天井と西側側壁に一部の石が抜き取られている。奥壁は凝灰岩の1枚石を使用し、床面には玉石が敷かれている。なお、床面の玉石も、奥壁側が疎らであることから、盗掘の際に攪乱を受けていると思われる。

石室の方位はN-25°-Wで、ほぼ南向きに開口する。

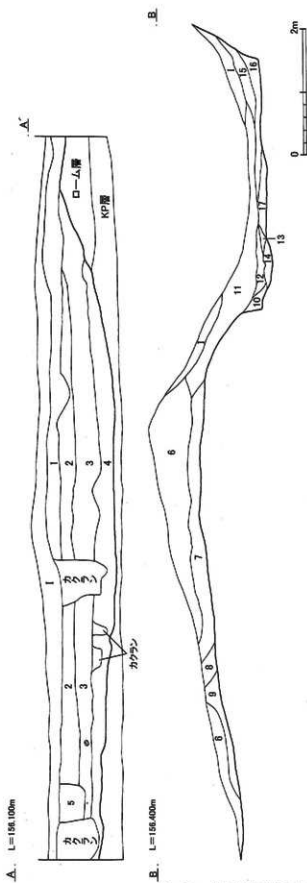
#### 玄室と羨道

石室の全長は3.1m、幅は奥壁で0.88m、羨道付近で0.6mである。西側側壁の残りがよくないこともあり羨道と玄室の区分が不明瞭であるが、東壁で割石を縦長置きに使用し、桐石の一部と考えられるやや大きめの凝灰岩により床面の玉石が有る部分と無い部分に分けられることから、玉石の敷かれる奥側が玄室で、



第10図 大塚古墳群測量図

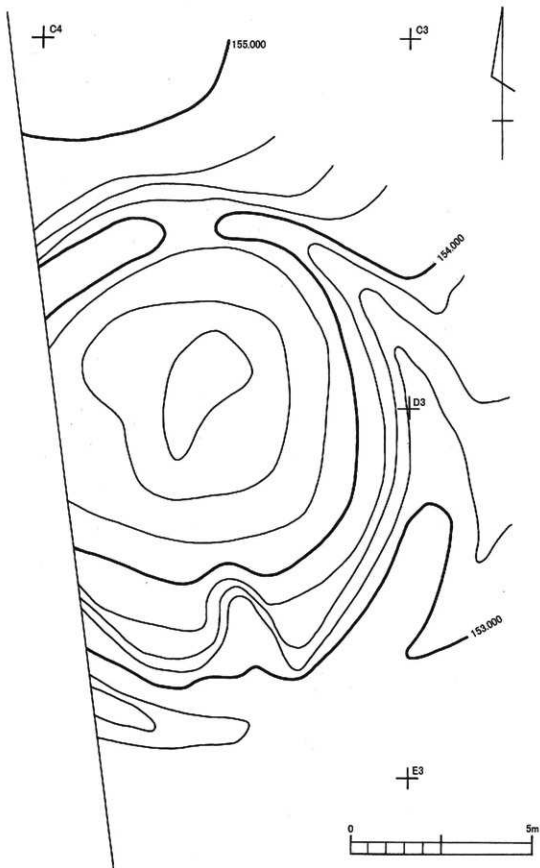




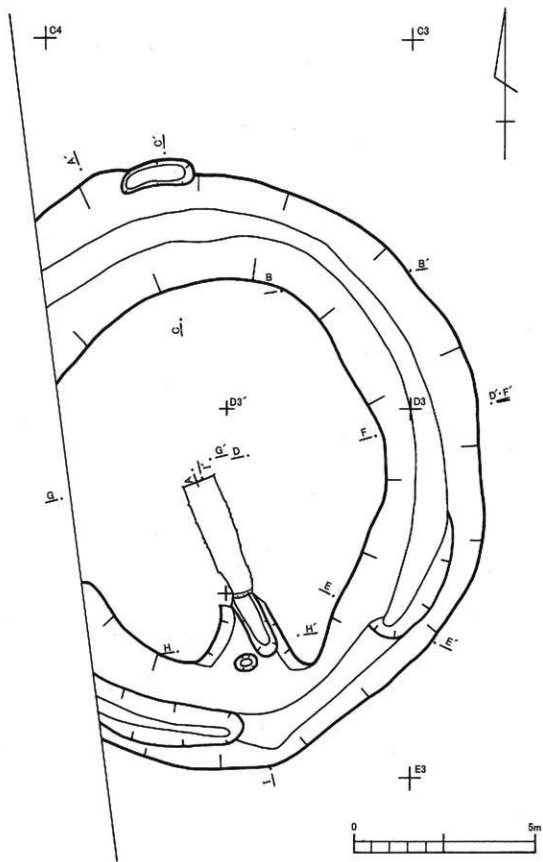
I 表層

- 1 暗黄褐色土 (小LBやや多、KP少、KP少)
- 2 褐色土 (LRやや多)
- 3 黒褐色土 (LR少)
- 4 暗黄褐色土 (LR多、KP少)
- 5 暗褐色土 (LR少)
- 6 褐色土 (小LB多、KPやや多、落葉の腐植土含)
- 7 暗褐色土 (小LB少、KP少、落葉の腐植土含)
- 8 落葉の腐植土層
- 9 暗褐色土 (小LB少、落葉の腐植土含)
- 10 明褐色土 (LR多、KP少、硬くしまる)
- 11 褐色土 (LR多、小LBやや多、落葉の腐植土含)
- 12 黄土 (LR多)
- 13 暗黄褐色土 (小LB多、硬くしまる)
- 14 黄土 (KP多)
- 15 暗褐色土 (LRやや多、KPやや多、柔らかい)
- 16 黒褐色土 (LRやや多、KPやや多、柔らかい)
- 17 黄褐色土 (LR多、KPやや多)

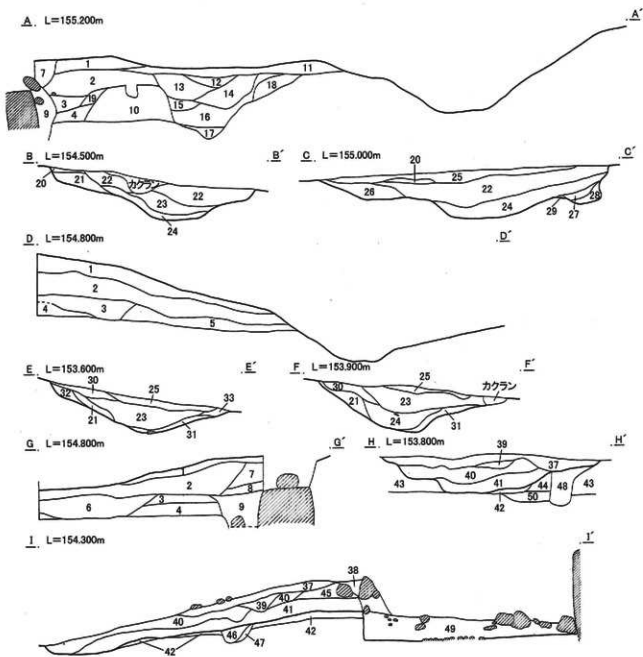
第11図 大塚古墳群断面図



第12図 大塚古墳群2号墳測量図



第13图 大塚古墳群2号墳平面图

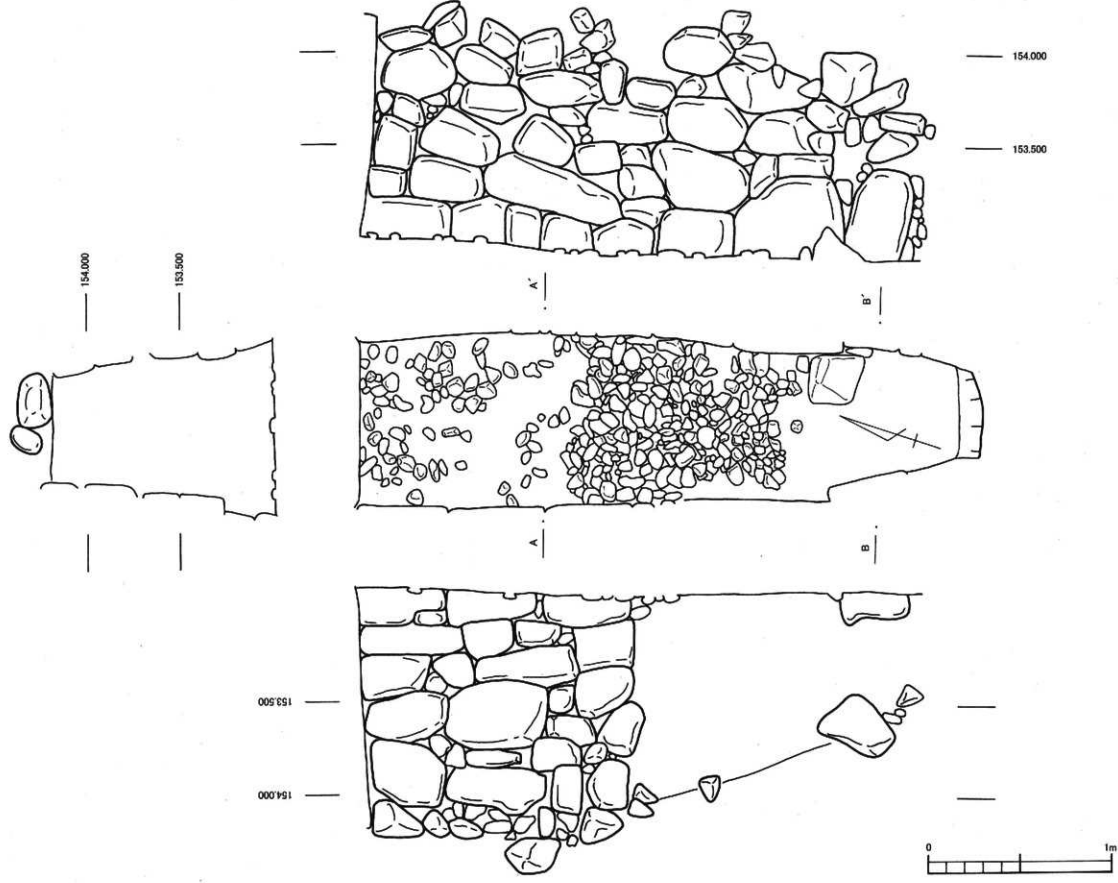


- |                       |                      |                                |
|-----------------------|----------------------|--------------------------------|
| 1 暗黄褐色土 (LR多、小LB少)    | 18 褐色土 (LRやや多)       | 35 黄褐色土 (LR多、柔らかい)             |
| 2 暗褐色土 (LR少、LB微)      | 19 黄褐色土 (LR多)        | 36 黄褐色土 (LR多、凝灰岩粒やや多)          |
| 3 黄褐色土 (LR微、IP)       | 20 黄土土 (ローム主体層)      | 37 黄褐色土 (LR多)                  |
| 4 暗褐色土 (LRやや多)        | 21 暗黄褐色土 (LBやや多)     | 38 灰褐色土 (凝灰岩粒多、粘土粒やや多、LRやや多)   |
| 5 暗黄褐色土 (LRやや多、小LB少)  | 22 暗褐色土 (LBやや多)      | 39 黄褐色土 (LR多、LB多)              |
| 6 暗褐色土 (LRやや多)        | 23 黄褐色土 (LB少、LR少)    | 40 暗黄褐色土 (LRやや多、凝灰岩粒少)         |
| 7 黄褐色土 (ローム主体層)       | 24 褐色土 (LR少、硬くしまる)   | 41 暗褐色土 (LRやや多、凝灰岩粒少)          |
| 8 灰色土 (粘土主体層)         | 25 暗黄褐色土 (LRやや多)     | 42 暗黄褐色土 (LRやや多、IP微)           |
| 9 黄褐色土 (ローム主体層)       | 26 暗褐色土 (LR少)        | 43 黄褐色土 (LR少、IP・SP微、硬くしまる)     |
| 10 黄土土 (ローム主体層)       | 27 暗褐色土 (LRやや多)      | 44 黄褐色土 (小LBやや多、小粘土B少)         |
| 11 褐色土 (LR少)          | 28 暗黄褐色土 (LR多)       | 45 褐色土 (LRやや多)                 |
| 12 暗褐色土 (LRやや多、小LB少)  | 29 黄褐色土 (小LBやや多)     | 46 黄褐色土 (LR少、硬くしまる)            |
| 13 黄褐色土 (LR少)         | 30 暗褐色土 (LR少、小LB少)   | 47 黄褐色土 (LR多、柔らかい)             |
| 14 暗黄褐色土 (LRやや多、小LB少) | 31 暗黄褐色土 (LRやや多、LB少) | 48 黄褐色土 (LR多、柔らかい)             |
| 15 黄土土 (LR微)          | 32 黄褐色土 (LB多)        | 49 黄褐色土 (LR多、凝灰岩粒少、柔らかい)       |
| 16 黄褐色土 (LR微)         | 33 褐色土 (LRやや多)       | 50 暗褐色土 (LR少、小LB少、凝灰岩粒少、硬くしまる) |
| 17 暗黄褐色土 (LRやや多)      | 34 暗褐色土 (凝灰土層)       |                                |

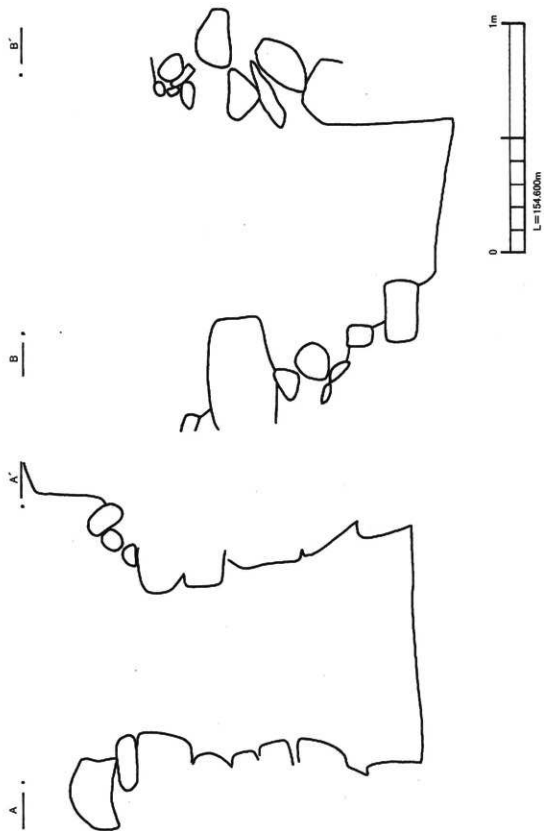
第14図 大塚古墳群2号墳断面図



第15図 大塚古墳群 2号墳石室確認面実測図



第16图 人塚古墳群2号墳石室平・断面图



第17图 大塚古墳群2号墳断面図

玉石の敷かれぬ入り口側が羨道と考えられる。これによる玄室の長さは2.43mである。また、平面的にみた場合、玄室の側壁はほぼ直線的であるのに対し、羨道が入り口側に向かって狭まるように石材が配されている。

玄室内の石材の積み方は、凝灰岩を概ね横長に使用するが割石乱積である。長さ25～60cmの割石を5～6段積み上げている。

奥壁は大きさが床面付近で幅1m、天井部分で0.7m、厚さ40cmの台形状の1枚石を使用している。

#### 墓道

墓道は、「ハ」の字状に開口し、南に向かって緩やかに傾斜し、周溝に接続する。閉塞石と思われる石は、発掘の際に投げ捨てられたのか周辺に散在する。羨道と墓道との境には、40cmの段差が見られる。墓道の長さは3.2m、幅は羨道側で60cm、確認面からの深さは約35～45cmである。

#### 出土遺物（第18図）

出土した遺物は、古墳に伴うと思われる土師器（1～3）のほか、中世のかわらけ（4～19）と古銭（20）、縄文時代の縄文土器（21～24）である。かわらけは古墳の墳長部付近にかたまっておき、この古墳を信仰の対象にしていた可能性がある。なお、石室内からの出土遺物は皆無であった。

1は土師器坏で、口径13.3cmの口縁部片である。口縁部は直立する。口縁部外面ヘラミガキ、体部内外面ヘラミガキ。胎土に砂粒を多く含み、焼成は良好、色調は褐色。2号墳の南側周溝埋土中より出土した。

2は土師器塊で、口径15.4cmの口縁部片である。口縁部は緩く外反する。口縁部内外面ヨコナデ、体部外面ヘラケズリ。胎土に砂粒、小石を含み、焼成は良好、色調は内面乳白色、外面黒色。2号墳の南側周溝埋土中より出土した。

3は土師器甕で、口径18cmの口縁部片である。口縁部は緩く外反する。口縁部外面ハケ後ヨコナデ。胎土に砂粒を含み、焼成は良好、色調は淡褐色。2号墳の南側周溝埋土中より出土した。

4はかわらけで、口径10.3cm、底径4.7cm、器高2.7cmである。ロクロ成形で、切り離しは回転糸切り。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好、色調は褐色。墳丘上より出土。

5はかわらけで、口径10.5cm、底径4.5cm、器高2.5cmである。ロクロ成形で、切り離しは回転糸切り。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好、色調は乳白色。墳丘上より出土。

6はかわらけで、口径10.7cmである。ロクロ成形。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好、色調は乳白色。石室埋土中より出土。

7はかわらけで、口径11.8cmである。ロクロ成形。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好、色調は赤褐色。西側周溝埋土中より出土。

8はかわらけで、口径10.8cm、底径6cm、器高2cmである。ロクロ成形で、切り離しは回転糸切り。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好、色調は淡褐色。墳丘上より出土。

9はかわらけで、口径8.5cmである。ロクロ成形。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好、色調は赤褐色。石室埋土上層より出土。

10はかわらけで、底径5.2cmである。ロクロ成形。胎土は砂粒を多く含み、焼成は良好、色調は褐色。石室埋土中より出土。

11はかわらけで、底径5.0cmである。ロクロ成形、切り離しは回転糸切り。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は淡褐色。墳丘上より出土。

12はかわらけで、底径5.2cmである。ロクロ成形、切り離しは回転糸切り。胎土は砂粒を含み、焼成は良



好、色調は淡褐色。石室埋土中より出土。

13はかわらけで、底径4.7cmである。ロクロ成形、切り離しは回転糸切り。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は淡褐色。石室埋土上層より出土。

14はかわらけで、底径4.0cmである。ロクロ成形、切り離しは回転糸切り。内面見込み部ナデ。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は淡褐色。石室埋土上層より出土。

15はかわらけで、底径6cmである。ロクロ成形。胎土は砂粒を含み、焼成は良好、色調は淡褐色。石室埋土上層より出土。

16はかわらけで、底径5.2cmである。ロクロ成形、切り離しは回転糸切り。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好、色調は褐色。墳丘上より出土。

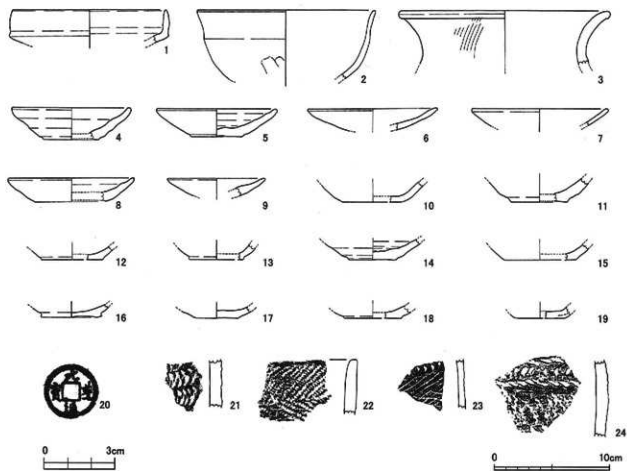
17はかわらけで、底径3.6cmである。ロクロ成形、切り離しは回転糸切り。内面見込み部ナデ。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好、色調は褐色。墳丘上より出土。

18はかわらけで、底径4.8cmである。ロクロ成形、切り離しは回転糸切り。胎土は砂粒を多く含み、焼成は良好、色調は乳白色。石室埋土上層より出土。

19はかわらけで、底径4cmである。ロクロ成形、切り離しは回転糸切り。胎土は砂粒を少量含み、焼成は良好、色調は乳白色。石室埋土中より出土。

20は北宋銭で、「元豊通寶」（1078年）である。直径が2.3cm。

21は爪形文、22は羽状縄文、23は縄文で両者とも繊維を含む。21は墳丘上、22・23は周溝内、24は表採である。



第18圖 大塚古墳群出土遺物実測図

### Ⅲ おわりに

本文では、平成6年に実施した八幡山古墳群1号墳と平成20年度に実施した大塚古墳群内の大塚古墳の一部と南側に隣接する2号墳について記載した。ここでは、それぞれの古墳について簡単にまとめてみる。

まず、八幡山古墳群1号墳についてまとめてみる。

①本墳は、直径約16mの円墳である。

②両袖式の横穴式石室で、凝灰岩の割石の通目積で、一部加工の度合いが良いブロック状の石材を使用している。

③奥壁は1枚石の凝灰岩を使用。

④床面は玉石を2層敷いている。

⑤遺物は玄室内の床面から、耳環、切子玉、勾玉、ガラス小玉が出土し、墓道上層から直刀、刀子、勾玉、小玉、須恵器片が出土。

一部に加工の度合いが良いブロック状の石材を使用していることや胴の張った形態の石室であることから、7世紀前半の可能性が指摘されている(市橋2008)。なお、④と⑤の状況から、1回以上の追葬が行われたことがわかる。

次に大塚古墳群について簡単にまとめてみる。

調査の結果、大塚古墳は現代の盗掘による攪乱を受け、2号墳は、かわらけの出土状況から中世の段階で盗掘を受けている可能性が高いと考えられる。そのため、石室の形態については不明な点が多いが、今回の調査でわかった点は次のとおりである。

①本墳は、直径12.9mの円墳である。

②側壁は、大きさがほぼ同じ凝灰岩の割石を横置きに使用し、その積み方は乱積である。

③奥壁は1枚石の凝灰岩を使用している。

④床面は玉石を敷いている。

⑤石室の平面形態は、側壁の一部が攪乱を受けているため確定はできないが、無袖式の可能性が考えられる。

次に北側に隣接する大塚古墳の石室と比較してみる。

両古墳とも奥壁が1枚石を使用し、側壁は乱積であるが比較的横目地がおとる積み方をしている点で共通する。一方、大塚古墳の側壁には腰石部分に大きめの石を使用し、玄門が両袖式である点等の違いがみられる。また、玄室の規模は、大塚古墳の玄室長が5.17m、奥壁幅1.95mであるのに対し、2号墳の玄室長が2.43m、奥壁幅0.88mとほぼ1/2の大きさである。尚、墳丘規模で比較すると、大塚古墳の墳丘長が53.4mであるのに対し、2号墳の墳丘長が12.9mと約1/4である。

石室の形態からこの古墳の年代を考えると、大塚古墳や谷口山古墳のように大ぶりの割石を側壁基底の腰石部に使用しておらず、権現山古墳と同じようにほぼ同大の割石を積み上げていることや、周溝内から出土した土師器片から6世紀後半段階の築造と考えられる。

尚、大塚古墳の年代については大橋泰夫氏がTK209併行期に位置付け(大橋1997)、市橋一郎氏も7世紀前半に位置付けている(市橋2008)。このことから、本墳は大塚古墳に先行して築造された可能性が高い。

第19図は宇都宮北部丘陵地区における横穴式石室の変遷案を図示したものである。本地域は、宇都宮市内において横穴式石室がいち早く導入された。北山古墳群内の宮下古墳と権現山古墳はその初期的なもので、宮下古墳からは轡、鈴杏葉等が出土し、その年代からTK-10併行期の時期に位置付けられている。権現山古墳は出土遺物がほとんどなく、遺物からの位置付けは難しいが、中村享史氏は、無袖型長方形で間仕切りをもつ権現山古墳は「宮下古墳と継起的に築造されたことは間違いなく、他に系譜的につながるような石室が6世紀後葉に造られていないので、宮下古墳より極端に新しくならない」としている(中村1998)。

この地域の主流をなす石室の型式は、塚原古墳群1号墳・2号墳・大塚古墳などその多くは両袖型で、玄門形式は組合せ玄門である。

最後に、石室の変遷を概観してみると、6世紀後葉以降に塚原古墳群1号墳で見られるように腰石等に大きめの石を使用したり、緩く胴が張るような傾向が見られるようになる。さらに7世紀には八幡山古墳群1号墳のように側壁石の加工の度が高くなる。

(参考文献)

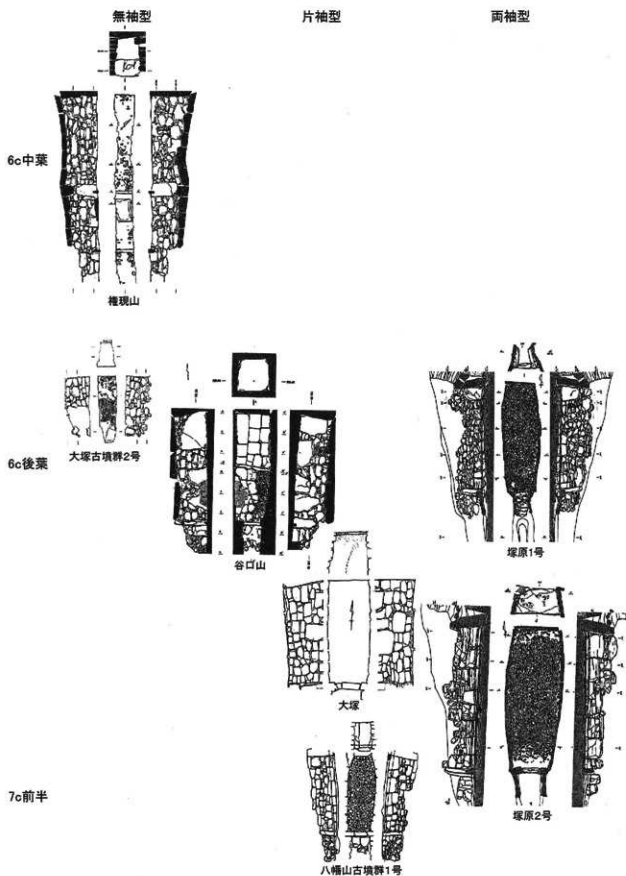
市橋一郎 2008「栃木県における横穴式石室の研究」『専修総合科学研究』第16号

大橋泰夫 1997「下野の横穴式石室と前方後円墳」『第2回東北・関東前方後円墳研究大会 シンポジウム横穴式石室と前方後円墳 発表要旨資料』東北・関東前方後円墳研究会

中村享史 1998「栃木県北部の横穴式石室」『研究紀要』第6号(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター

No	遺跡名	地形	墳長 (m)	埋葬施設	玄室長	玄室幅	羨室長	羨室幅	出土遺物	備考
1	塚原古墳群									円墳9基
	1号墳	円墳	32.2	両袖型横穴式石室	5.4	1.08~1.75	1.2	1~1.15	銅刀1、鉄鏃37、 雲珠1、辻金具2、 銅環2等	
	2号墳	円墳	34.1	両袖型横穴式石室	7	1.75~2.6	1.2	1~1.2	刀子1、鉄鏃2、辻 金具、ガラス小玉 100、管玉3、瓦葺1	
2	高山古墳	円墳	約20	両袖型横穴式石室						
3	北山古墳群									前方後円墳3基 円墳10基
	宮下古墳	前方後円墳	43	片袖型横穴式石室						
	権現山古墳	前方後円墳	41	片袖型横穴式石室						
	権現山古墳	前方後円墳	40	片袖型横穴式石室	5.05	0.92~1.25	3	0.88	ガラス小玉1、 鉄鏃2	
4	長岡百穴			横穴墓						52墓
5	瓦塚古墳群									前方後円墳1基 円墳41基
	瓦塚古墳	前方後円墳	45	横穴式石室					埴輪、瓦葺、銅刀、 玉璽等	明治31年調査
	25号墳	円墳	18	両袖型横穴式石室	2.54	0.9	0.6	0.7		
	26号墳	円墳	40	両袖型横穴式石室	8.12	1.9	1.36	0.9	銅刀2、銅1、刀子1、 ガラス小玉41、鉄 鏃33、金環5、 瓦葺4、小刀1、 管1、鎌倉貝1	
	32号墳	円墳	14	T字型横穴式石室	5.05	1.3	4.4	1.27		
6	谷口山古墳群									円墳5基
	谷口山古墳	円墳	29	片袖型横穴式石室	5.5	1.4~1.7	1.5	0.8	銅刀3、鉄鏃1、 瓦葺3、 ガラス小玉149	
7	大塚古墳群									
	大塚古墳	円墳	53	両袖型横穴式石室	5.17	1.95~2.14				
	2号墳	円墳	12.9	片袖型横穴式石室?	3.1	0.6~0.88		0.6		
8	大ジノ古墳群									円墳6基?
9	山本山古墳群									
	1号墳	円墳	16							
	2号墳	円墳	18	両袖型横穴式石室	4.25	1.1~1.35	1.25	0.75	銅刀、鉄鏃、刀子等	
10	芦原光塚古墳群									円墳6基
11	神宮寺境内古墳	前方後円墳	40							
12	八幡山古墳群									
	1号墳	円墳	16	両袖型横穴式石室	3.8	0.84~1.2	1.2	1	銅刀1、刀子1、鉄 鏃3、切子玉5、勾 玉5、ガラス小玉11 丸玉15、灰志燻片	
13	御蔵山古墳	前方後円墳	62							

第2表 周辺横穴式石室一覧



第19図 宇都宮北部丘陵地区横穴式石室変遷案図

# 写真図版

PL1



① 狭道閉塞状況



② 狭道確認状況 (1)



①狭道確認状況 (2)

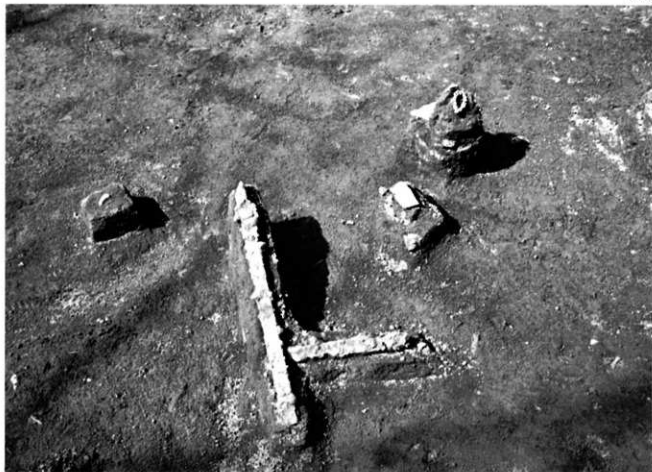


②玄室完掘状況





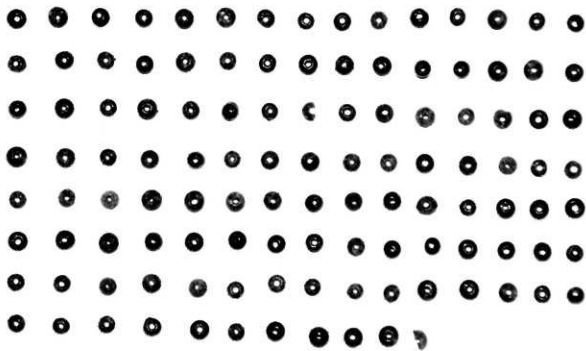
①石室全景



①墓道上層遺物出土状況



②玄室内耳環出土状況



①ガラス小玉



②丸玉



③切子玉



①勾玉



②耳環



③須恵器甕



④弥生土器



⑤石鏃



①大塚古墳と2号墳（調査前）



②大塚古墳周溝確認状況



大塚古墳群 2号墳全景（北より）



②大塚古墳群 2号墳全景（南より）



①玄室完掘状況（東より）



①玄室完掘状況アップ（南より）



①玄室完掘状況（南より）



②土師器甕

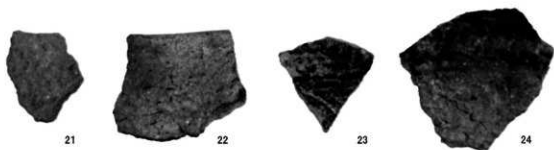




①かわらけ



②古銭



③縄文土器

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	はちまんやまこふんぐんいちごうふん・おおつかこふんぐん
書名	八幡山古墳群1号墳・大塚古墳群
副書名	
巻次	
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第77集
編著者名	大塚雅之・今平利幸
編集機関	宇都宮市教育委員会
所在地	栃木県宇都宮市旭1丁目1番5号 Ⅱ028-632-2764
発行年月日	西暦 2011年(平成23年) 3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
はちまんやまこふん 八幡山古墳 ぐんいちごうふん 群1号墳	うつのみやしになむ 宇都宮市瑞 だごちょうめ 田5丁目	09201		36度 34分 12秒	139度 53分 8秒	19940214 ～ 19940331	250	公園整備 に伴う発 掘調査
おおつかこふんぐん 大塚古墳群	うつのみやし 宇都宮市 かみよまつりょう 上戸祭町	09201		36度 35分 25秒	139度 52分 24秒	20080526 ～ 20080718	1,273	個人住宅 に伴う発 掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
八幡山古墳群 1号墳	古墳	古墳時代	古墳	1基	ガラス小玉、丸玉、 勾玉、切子玉、耳環、 須恵器、弥生土器	
大塚古墳群	古墳	古墳時代 中世	古墳	2基	縄文土器 土師器 かわらけ、古銭	

---

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第77集

八幡山古墳群 1号墳  
・大塚古墳群

平成23年3月

発行 宇都宮市教育委員会文化課  
(宇都宮市旭1-1-5)  
TEL (028) 632-2764

印刷 下野印刷機  
(宇都宮市宝木町1-28-11)  
TEL (028) 622-6953

---